



AOMORI BASE

# はじめに

青森大学観光文化研究センターは、地域の観光振興を資する人材育成のため、また地域の観光を専門的立場から支援するために設置しました。広く観光を捉え、観光を学び、観光という視点で様々な場面で役立つ人材を輩出し、観光産業に留まらず、観光を通じて社会に役立つ人材を育成することを目的として活動しています。

これまでの活動を通して、青森県の観光資源、自然資源、と文化・歴史資源、の2つの視点で取り組んできました。いずれも自然由来の観光資源として考え、その資源を体験型観光商品に落とし込んで、これから観光事業の開発・展開をする試みでした。

令和2年度の活動は、海をフィールドに「陸奥湾のイルカツアー」「サイクリング＆フィッシング」に始まり、十和田湖の「カヌー＆サイクリング」、森をフィールドに「森に育む・森に遊ぶ」、そして、「焚火料理＆森のクラフト」「薪の魅力講座」「ハーブ＆薬草」、さらに縄文文化から「青森の森と暮らし」へと広がりました。そして、自然由来の資源と食に繋がり「発酵文化ツーリズム」へ展開をしました。観光文化が自然体験から暮らしと健康、文化へと展開する、まさに「青森学」を体験として提供する役割が新たに見えてきました。

また、雪国青森の冬の自然資源である「雪」を最大限に活用する試みも続けました。新たなコンテンツとして「雪板」を取り入れ、冬の八甲田をフィールドに「バックカントリー入門」そして、新しい青森の冬の観光イメージになるように「イグルー」の普及・イベントに大きく取り組みを展開しました。

これらの活動を継続し、これからも自然資源を最大限に活用する青森の観光産業の振興に取り組んでいきます。

青森大学観光文化研究センター  
センター長 佐々木豊志

## 目 次

はじめに	2
実施概要	3
陸奥湾イルカツアー	4
サイクリング＆フィッシングツアー	5
森に育む講座(木こり講座)	6
あおもりハーブで野草カフェ	6
縄文から現代へつながる青森の森と暮らし	7
「縄文クッキング～どんぐりのひつみ鍋を縄文土器で食す」	7
「森の魅力～森と小牧野遺跡のフィールドワーク～」	7
「山葡萄のストレートジュースづくり～古来からの山の恵みを味わう～」	7
「未病を知る～社会とともに歩む～」	7
塙原俊也の森で遊ぶ講座～キャンプ入門編～	8
発酵文化ツーリズム発明家小泉武夫直伝!～日本を醸し続けてきた文化から「今」を乗り越えるヒントを学ぶ～	9
奥入瀬渓流サイクリング＆ワーケーションツアー	10
十和田湖カヌーのあるファミリーアドベンチャーツアー	11
長野修平の森の楽しみ～焚き火料理＆森のクラフト講座～	12
woodrackの薪の魅力講座	13
雪板づくり＆雪板体験ツアー	14
バックカントリー入門講座 & 体験ツアー	15
イグルーマイスター育成講座	16
第0回世界イグルー選手権	17
第0回世界イグルー選手権前夜祭	18
観光産業の中核を担う人材育成講座	19

# 実施概要

当センターでは、2017年度より観光庁から「産学連携による観光産業の中核人材育成・強化事業」を受託して取り組んで参りました。1年目は”実践から学ぶ観光産業改革の手法”、2年目は”実践から学ぶ自然環境資源を活かす体験型観光商品の開発手法”、3年目は前年度事業に”自然資源”や”文化資源”的視点を加えて体験型観光商品を開発する試みをしました。

今年度は、昨年度からの取り組みをブラッシュアップし、広く市民へ伝える取り組みとして、オフラインとオンラインを織り交ぜて事業展開をしました。SDGsを意識した持続可能な青森県型の体験型観光商品開発のため青森の木や森を活用した事業や森から得られる自然由来の素材（ハーブ・薬草など）を活かす事業に取り組みました。

更に「雪国青森」の冬の新たな観光戦略として、『イグルー』を使ったイメージづくりに取り組みました。イグルーづくりができる人材育成として「イグルーマイスター講座」、さらに、イグルーが広く普及するために参加型イベント「世界イグルー選手権」を開催しました。

2020年は新型コロナウイルスの感染拡大により世界の観光を取り巻く環境は大きく変化しました。近年急増していた日本への外国人観光客は姿を消し、国内ではマイクロツーリズムなどの推奨により身近な観光地への関心が高まりました。これから紹介する当センターの今年度実施事業は、青森県型の「持続可能な自然体験型観光」を提案するとともに、新型コロナウイルスの感染拡大の終息までの間の地域の雇用の維持・確保及び地域経済の再活性化を目指す人材育成および地域団体との連携を目指した取り組みです。





## 【視察】陸奥湾イルカツアー

実施日:第1回 5月29日(金)、第2回 6月2日(火)、第3回 6月6日(土)

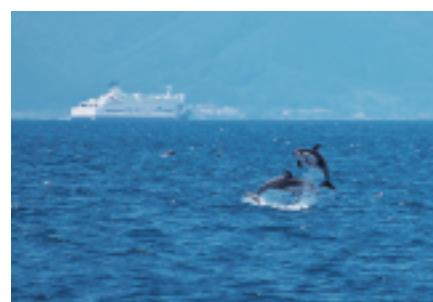
場所:蟹田港～陸奥湾

講師:清川繁人氏(青森大学 教授)

観光文化研究センター委員の清川先生が取り組んでいるイルカツアー視察を企画しました。地域の観光資源として、この時期に陸奥湾にカマイルカがやってきます。八甲田山に豊富な栄養を含んだ雪解け水が陸奥湾に流れ、プランクトンが発生しイワシの群れがやってきます。そして、イワシを追ってカマイルカが陸奥湾に入ってきます。5月中旬から6月中旬にかけて、この時期にだけに体験できる観光資源です。地域の体験型観光資源の活用の可能性を探りたいと思います。

### 【おすすめポイント】

イルカが近い!青森県でイルカがみれる漁船ツアー。地元の海を熟知している漁師さんがご案内しますので高い確率でイルカに出会えます。



写真提供:清川 繁人



## 【ツアーサイクリング＆フィッシングツアー

実施日:8月1日(土)

場所:青森駅～蟹田港

講師:花田カズオ氏(BBBAomoriTourGuides)、其田知志氏(フィッシングガイド)

実は、観光資源は身近なところにあるのかもしれない。昔から地域で目に見える光景に、自転車、釣りがある。コロナ禍の中で、市民に県内でも楽しめる“小さな旅”一人でも楽しめるツアーを提案したのが「サイクリング×フィッシング」という企画でした。目的地までを楽しめるというサイクリングの可能性と、青森県の三方を海で囲まれたフィールドを生かせるフィッシングのコラボで地域の体験型観光資源の活用の可能性を探りたいと思います。

### 【おすすめポイント】

「蟹田港」はエメラルドグリーンの陸奥湾を眺望できる絶景スポット





## 【講座】森に育む講座（木こり講座）

実施日:9月20日(日)

会場:青森大学所有林(沢山)

講師:神鉄平氏(青森県林政課)、佐々木祐介氏(西北地域県民局地域農林水産部)

観光文化研究センターは、自然由来の資源をベースに観光資源を活用することを一貫して取り組んできました。観光は持続可能な社会を創造する社会的な役割も担っています。いわゆる「ツーリズム」を通して持続可能な社会を実現するという役割です。

県名に「森」がつく唯一の県は青森です。自然体験型観光商品の展開の中で、この講座は、森林資源に向き合う体験を通じて、森林環境について学び林業の現状も知る「木こり体験プログラム」です。

観光は非日常のワクワクした体験です。森林整備などの作業は林業家にとっては日常の体験です。非日常の「森林×体験」プログラムを展開することで、観光プログラムとしての可能性を模索することができた講座でもありました。

2015年に国連が採択した「SDGs」持続可能な開発目標があります。観光文化研究センターは、観光の根底に「SDGs」を意識して展開することが重要であると考えています。

青森大学が所有する山林で、森林整備の技術習得、安全対策を体験を通して学ぶことができます。森林を持続可能な循環する地域の資源として活用する1つの方法として「ツーリズム」からのアプローチを今後も提案していきます。



## 【講座】あおもりハーブで野草カフェ

実施日:9月21日(月)

会場:青森大学ヒュッテ

講師:あおもり和ハーブの会(沼内美加子氏、内村明子氏、鎌田雪野氏、玉熊恭子氏、戸澤依香子氏)・青森大学薬学部准教授/博士(地球環境科学)佐藤昌泰氏

自然由来の野草と薬草に焦点を当てた「ハーブ料理体験」と「薬草・森歩き体験」の講座を行いました。日頃からハーブ料理を研究されている「あおもり和ハーブの会」の方々を講師に「身近にある野草を使用した調理実習」で野草料理7品を調理しました。午後は本学薬学部の佐藤昌泰准教授が講師となり「未病を知る～食べ物を整える」と題して、身近な野草・有用植物を知るフィールドワークを行いました。モヤヒルズ周辺の自然に出かけ身近な植物について知識を深めました。

### 【おすすめポイント】

楽しく健康に良い野草カフェを限定オープン



テーマは「

## 【講座】縄文から現代へつながる青森の森と暮らし

実施日:10月10日(土)~11日(日)

会場1:縄文の学び舎・小牧野館及び国指定史跡小牧野遺跡

会場2:青森大学ヒュッテ

青森県の豊かな自然を基盤に育まれてきた文化や暮らしの価値をみつめなおすための2日間です。縄文時代をはじめとした人間の長い歴史の中で、先人達により生み出されてきた知恵や植物利用、その基盤となる自然を体験するポイントを縄文文化、写真家、漢方の3つの視点から学びました。

### 「縄文クッキング～どんぐりのひつみ鍋を縄文土器で食す」

講師:児玉大成(青森市教育委員会事務局文化財課・青森大学観光文化研究センター客員研究員)

青森県内には、観光資源としても注目される縄文の遺跡が点在しています。これらの遺跡群は、現在世界文化遺産の登録を目指している地域の貴重な資源です。この講座は、青森市郊外にある『縄文の学び舎・小牧野館』で縄文文化の料理体験というテーマで、縄文時代ながらのように黒曜石で鹿肉を切って焼き、どんぐりの実をすり潰し小麦粉で練って「ひつみ鍋」つくり、さらに縄文土器で食す体験をした、縄文を感じる講座になりました。



### 「森の魅力～森と小牧野遺跡のフィールドワーク～」

講師:渡辺洋一(写真家)

小牧野遺跡にフィールドを移し、世界各地の森を撮り続けていた写真家渡辺洋一氏をファシリテートで遺跡のフィールドワークを行ないました。森を観る視点、自然と向き合う感性に響く時間になりました。



### 「山葡萄のストレートジュースづくり～古来からの山の恵みを味わう～」

講師:玉熊恭子(あおもり和ハーブの会・樹木医)、戸澤依香子(あおもり和ハーブの会)

山葡萄の実を絞り、濃厚な山葡萄ジュースを作り、搾かすで絹のハンカチを輪ゴムで絞り草木染め体験を行いました。自然由来の素材を活かした食とクラフトの体験です。



### 「未病を知る～社会とともに歩む～」

講師:大越絵実加(青森大学薬学部 教授)

薬草の研究をしている本学の大越教授にご登壇いただき、『薬草』についての座学講座になりました。「桔梗」と「甘草」のお茶をブレンドして食し、自然由来の素材である薬草を通じて、健康・食について考え『未病』という健康寿命を延ばすヒントをいただきました。



「自然由来」



## 【講座】塙原俊也の森で遊ぶ講座～キャンプ入門編～

実施日:10月17日(土)

会場:青森大学所有林(沢山)

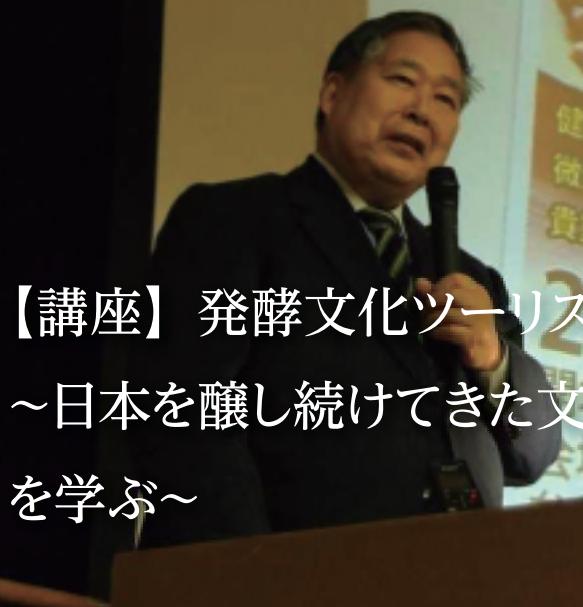
講師:くりこま高原自然学校(塙原俊也氏、住吉利允氏)

幾つかの事業では「森」をテーマに取り上げています。今回は本学園が所有する山林を会場に、家族で参加できるキャンプ入門講座を行いました。

1泊2日の日程でロープワーク・テント設営・野外料理・火と対話・バードコールなどを指導していただきました。

【おすすめポイント】持続可能な暮らしを実践しよう!





## 【講座】発酵文化ツーリズム発明家小泉武夫直伝! ～日本を醸し続けてきた文化から「今」を乗り越えるヒント を学ぶ～

実施日:11月22日(日)

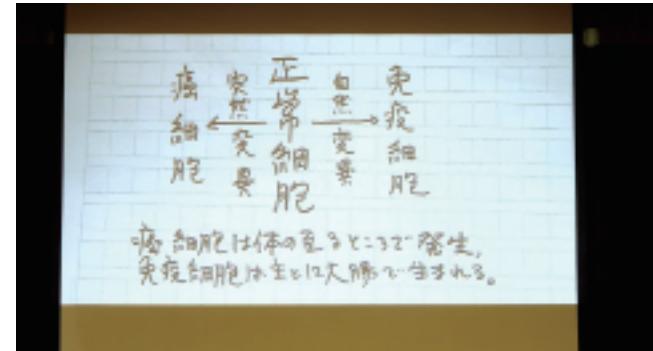
会場:青森大学6号館記念ホール

講師:小泉武夫氏(東京農業大学名誉教授・農学博士)

地域の自然資源を観光資源に活用する。という取り組みを続けていくうちに、自然由来のハーブや薬草というテーマに繋がり、そこから「食と健康」という領域のテーマにたどり着きました。今回は、一見観光と繋がりがないような講座名ですが、「発酵ツーリズム」という視点を発見しこの講座の開講に至りました。発酵食品・発酵文化を探求し続け、世界中を旅してきた小泉武夫氏をお迎えし講座を実施いたしました。

コロナ禍の今、地球にとって、人間にとってこの節目をどう捉えるのか。世界の発酵文化を自らの五感で吸収され発信を続け、さらに日本ならではの発酵文化を世界へ発信をしている発酵ツーリズム発明家小泉武夫先生の直伝の講座になりました。

短命県返上と言われ続けている青森県ですが、生活に何の支障もない健康寿命を延ばすという視点で、健康寿命を維持する発酵食の知られざるパワー、秘密の数々を伝授していただきました。この講座のテーマは、今後シリーズ化して来年度以降も継続したいテーマとなりました。





## 【PR】奥入瀬渓流サイクリング & ワーケーションツアー

実施日:9月26日(土)~27日(日)

会場:奥入瀬渓流~十和田湖周辺

講師:花田カズオ氏(BBBAomoriTourGuides)、山田龍三郎氏(アウトドア系インスタグラマー)

観光メディアへのモニターツアーおよびメディア配信によるプロモーションを実施しました。宇樽部キャンプ場を拠点に十和田湖~奥入瀬の自然と歴史を学ぶツアーを行い、ツアー参加後は地元食材によるBBQをいただきました。十和田湖周辺のワーケーション可能な施設「yamaju」の取材により、ワーケーションを擬似体験しアフターコロナに向けて情報発信しました。

【おすすめポイント】宇樽部キャンプ場を中心に自転車で十和田湖周辺のおすすめスポットをまわる



「十和田湖の大自然



## 【PR】十和田湖カヌーのあるファミリーアドベンチャーツアー

実施日:10月3日(土)~4日(日)

会場:十和田湖周辺

講師:村上周平氏(十和田湖ガイドハウス櫻)、山田龍三郎氏(アウトドア系インスタグラマー)

観光メディアへのモニターツアーおよびメディア配信によるプロモーションを実施しました。宇樽部キャンプ場を拠点に十和田湖でカヌー体験&十和田湖の自然と歴史を学ぶツアーを行った後に、地元食材のヒメマス焼きをいただきました。宇樽部キャンプ場でもワーケーションが可能です。

### 【おすすめポイント】

十和田湖カヌーの魅力は早朝日の出ツアー!?



写真提供:福田昂太



然を感じるツアー」

## 【講座】長野修平の森の楽しみ

### ～焚き火料理 & 森のクラフト講座～

実施日:10月24日(土)

会場:青森大学ヒュッテ(青森市モヤヒルズ)、青森大学所有山林(青森市沢山)

講師:長野修平氏(野外料理人・ネイチャークラフト作家)、玉熊恭子氏(樹木医・あおもり和ハーブの会)

自然由来の素材をオシャレに体験する”森に向き合う講座”になりました。講師には焚き火料理の達人として数々の雑誌やTVに出演されている長野修平氏を迎え、その極意を伝えていただきました。

1日目は青森市雲谷地区で有機野菜を栽培している桜田農園から収穫した野菜をふんだんに使い、ダッチオーブンで焚き火料理を体験し、2日目は青森大学所有の山林を樹木医の玉熊氏のガイドで、樹木を観ながらクラフトの材料を探し、その材料で長野氏の指導のもと木工体験を行いました。

火と刃物がある暮らしをテーマに森に向き合う奥深い講座になりました。



「森の魅力」

## 【講座】woodrack の薪の魅力講座



実施日:10月24日(土)

会場:青森大学ヒュッテ

講師: woodrack(相馬壮氏、石村真弓氏)

「市民一人当たりの灯油の消費量日本一の青森市、この課題と向き合うことからこの講座が始まりました。県名に『森』がつくのは青森県だけ、未来の青森を語る時に『森』に向かわずして語ることなれ…こんな想いがこの講座にはあります。

森からエネルギーを得ることは、地域にお金も資源も循環することになります。化石燃料を買うことは海外にお金が流れます。青森県民・市民にとって薪をもっと身近なものにするために「薪の魅力を伝える講座」という講座名になりました。

講師の相馬壮氏の言葉から、woodrackは「ただ薪ストーブを販売するだけの会社ではなく、森林資源が健全に循環し持続可能な地域資源であり続け、健康で豊かな暮らしの実現に寄与する社会的企業」であることが理解できました。薪のサウナ、薪でピザ、薪割り体験ととことん『薪』に向き合う時間になりました。



「薪を味わう」



## 【講座】雪板づくり & 雪板体験ツアー

実施日:12月19日(土)~20日(日)

会場:青森大学ヒュッテ

講師:其田知志氏(八甲田山酸ヶ湯ツアーガイド)、佐々木豊志氏(青森大学観光文化研究センター長)、喜來大智氏(青森大学)

青森の冬の観光資源には欠かせない「雪」、のもう一つの活かし方の可能性が「雪板」にはあります。雪がない中国・香港や台湾、東南アジアの観光客には札幌雪まつりや八甲田の樹氷を観る目的で来る人もいるが、中にはスキーやスノーボードの体験を望む声も聽かれています。スキーやスノーボードはスキルが必要なため、体験をするためにはハードルが高くなります。その点「雪板」は「誰でも、すぐに、場所を選ばず」に遊ぶことができ、バックカントリーなどのような体験のハードルを下げ、擬似的に体験することができます。

雪板は自分で容易につくりができる雪遊びの道具です。スノーボードと異なりエッジがなく、脚を固定するバインディングもありません。遊び方も特別なブーツも必要なく、板に乗り簡単に楽しむことができます。エッジがないので圧雪されたゲレンデでなく、ふわふわの新雪で楽しむことができます。もちろん滑る技術はある程度必要ですが、取り掛かるハードルはかなり低くなります。深雪で転倒することすら楽しむことができる体験ができることも魅力になります。

初日は、あらかじめ反りをつけたコンパネを元に、参加者それぞれの発想で形をデザインして、カットし、磨き、ニスを塗り1日でオリジナルの雪板を完成させます。2日目は、モヤヒルズのゲレンデで実際に滑走に挑戦して、雪板の滑りを楽しみました。



## 【講座】バックカントリー入門講座 & 体験ツアー

実施日:1月30日(土)~31日(日)

会場:モヤヒルズ～八甲田ロープウェー～八甲田山周辺

講師:其田知志氏(酸ヶ湯ツアーガイド)、喜來大智氏(酸ヶ湯ツアーアシスタントガイド)、佐々木豊志氏(青森大学観光文化研究センター長)

今や冬の八甲田には、雪質とフィールドに魅了されたスキーヤーが世界中からやってきます。30万都市青森の市街地からわずか1時間圏内に自然豊かなフィールドが広がっています。バックカントリーの魅力をもつと地元の若者たちに知ってもらうための初心者対象の講座を実施しました。

冬の八甲田は過去に悲惨な遭難事件もあり、今回の講座では自分を守り、仲間を守るためにリスク回避の意識を再認識することも重視して進めました。バックカントリーの基本的な知識である服装、携行品について、そして遭難対策装備、雪崩対策の7つのステップ、スキー場を超えて入り込むフィールドの知識まで座学で集中して学びました。

体験演習として、雪崩に巻き込まれた仲間を救出するための技術を学びました。冬山のバックカントリーに出る時は、ビーコンと呼ばれる発信機を全員が装着することを条件にガイドを行っています。万が一メンバーが雪崩に遭遇した場合を想定してビーコンの使い方と救出方法を体験し、ビーコンが発する電波の性質、性能を理解して操作することを学びました。

その後、スキー・ボードの滑走技術の練習を行い、連日の降雪で膝までの深雪があり十分にバックカントリーの感触を味わうことができる講座になりました。





## 【講座】イグルーマイスター育成講座

実施日:12月25日(金)~27日(日)

会場:酸ヶ湯温泉

講師:佐々木豊志氏(青森大学観光文化研究センター長)、其田知志氏(酸ヶ湯ツアーガイド)、喜來大智氏(青森大学)

雪国青森の観光戦略に提案をしたいのが『イグルー』、というコンテンツです。暮らしの中では邪魔者にされる青森県の『雪』を青森だからこそ資源にして観光に活かす取り組みです。長年にわたって野外教育の現場でイグルーづくりに取り組んできた佐々木(青森大学観光文化センター長)がイグルーづくりの知識と技術を伝え、イグルーをつくることができる県民・市民を育成することを目的に実施しました。

イグルーマイスター認定証は5段階

1. Mitter / 2. Cutter / 3. Stacker / 4. Adjuster / 5. Meister

イグルーを見たことがあるだけで1.Mitter(ミター)の資格を得られます





## 【イベント】第0回世界イグルー選手権

実施日:2月6日(土)~7日(日)

会場:モヤヒルズ

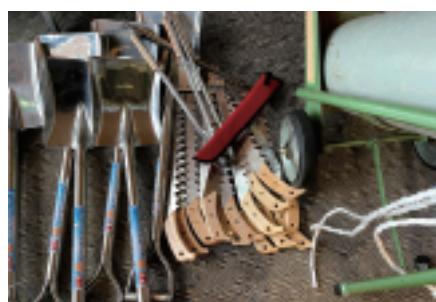
「雪、をテーマに取り上げてきた『イグルー』は雪国青森の今後の観光イメージ戦略として提案したいコンテンツという位置付けで取り組んできました。暮らしの中では邪魔者にされている青森県の『雪』は、雪深い青森だからこそ観光資源として活用できる可能性を秘めています。「イグルーマイスター養成講座」でイグルーづくりに必要な知識と技術を伝え、イグルーづくりができる人材の育成を行ってきました。そして、この「世界イグルー選手権」は、さらに、多くの市民に『イグルー』を知ってもらい、雪に対するイメージを変える市民参加のイグルーづくりのイベントとして実施しました。

積雪が1m40cmほどあるモヤヒルズのキャンプ場を会場に、6組36名の参加者で競いました。各チームには、スノーソー2本、脚立、ソリ、スコップが貸し出され3時間という時間制限の中で完成を目指しました。母子2名・父子2名で参加する家族から3家族が組んで参加するチーム、青森大学事務局チームと多彩なチームが参加しました。

終了後、審査基準(技術・独創性・チームワーク・完成度)で審査し、各チームを表彰しました。初代優勝チームは「SNOW STARS」で内径3.2mと大きさは2番手でしたが、入り口、内装の椅子、テーブルの仕上がりの完成度の高さが評価されました。3家族合同で参加したチームはモミの木をイグルーの真ん中に入れたオリジナリティある作品を完成させました。

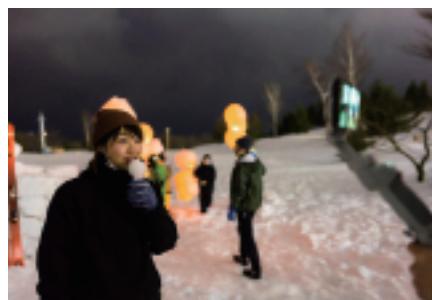
今回は子どもを含む家族での参加が多く、参加者からは「雪に対するイメージが変わった」「雪かきも楽しくなる」という感想もきかれました。これを機会に家族で庭先にイグルーづくりを楽しむことが新しい青森の冬の風景になることを期待したいと感じました。

世界一を目指せ!!





## 【イベント】第0回世界イグルー選手権前夜祭



実施日:2月6日(土)

会場:モヤヒルズ

世界大会前日には、世界大会に備えてイグルーづくりの体験指導を実施した他、イグルー世界大会前夜祭として、ランタン(天燈)を飛ばし、イグルーBARも開催しました。この模様は、「オンライン青森冬景色」という外部イベントと連携しzoomにてライブ配信を実施しました。ランタンのオレンジ色がイグルーの雪を浮き彫りにし、幻想的な空間を演出することができ、来年度以降も魅力ある観光イベントとして展開できる可能性を感じました。

### 【おすすめポイント】

横内小学校の5、6年生のみんなからスカイランタンにメッセージをもらいました!コロナに負けるな!



実施日:11月5日(金)～11月6日(土)

会場:青森県観光物産館 アスパム4階 十和田

講師:佐々木豊志氏(青森大学観光文化研究センター長)、高坂幹氏(青森県観光連盟 専務理事)、蝦名正晴氏(八甲田ロープウェー株式会社 社長)、内田純一氏(小樽商科大学 教授)、近藤真弘氏(一般社団法人地域の魅力研究所 理事)、鈴木宏一郎氏(株式会社北海道宝島社 社長)

第1ターム「縄文から現代へつながる青森の森と暮らし」で学んだ自然資源や歴史・文化の価値を商品化し、体験型観光商品を事業化するためのマーケティング戦略や具体的な販売手法について事例を通して学び、1・2タームを合わせて地域のシーズと観光客のニーズにつなげる戦略を考える講座になりました。

パネルディスカッションでは、今後DMO/DMCを目指す「AOMORI BASE」が青森で自然体験に特化して企画・展開をする事業体としての可能性について探りました。

北海道から来青予定だった3名の講師は、コロナ対策上急遽リモートでの講演となりました。



青森大学 観光文化研究センター 主催  
2020年度事業

2021年3月

発行 青森大学 観光文化研究センター

〒030-0943 青森県青森市幸畑二丁目3番1号

発行人 佐々木 豊志 青森大学観光文化研究センター

※無断転載を禁じます